水沢病院の経営を国の専門家が診断

病院機能の選択と集中必要

総合水沢病院の経営改善を目的に市が総務省に要請していた「地方公営企業等経営アドバイザー」による調査が、10月15、16日に同院で行われました。調査に当たったアドバイザーは、同院の経営が大変厳しい状況であることを指摘し、胆江医療圏全体を見据えながら「選択と集中」により病院機能を明確化するなどの対策を示しました。

今回派遣されたのは、五十嵐邦彦公認会計士で、市・病院職員からの聞き取り、施設の視察、事前に提出していた経営状況を記した調査票の確認などで現状を分析。16日の講評では、経営状況の課題、問題点の指摘と、改善策の助言、質疑応答などが行われました。

水沢病院の経営状況は、単年度では4億3082万円（18年度決算）、累積では38億1088万円の赤字を抱えています。同院は現在「第2次経営改善計画」で専任の事業管理者の配置、病床や職員の削減などに取り組んでいます。全国的に医師不足が叫ばれる中、計画どおりの医師数を維持することができず、赤字の増加に歯止めがかけられない状況です。

債務の抑制が緊急課題

アドバイザーは公認会計士などの資格を持つ専門家で、地方自治体などの要請に基づき国から派遣され、経営改善に必要な対策などを指導、助言します。

再生の道は選択と集中

アドバイザーは講評で「経営状況は、民間であれば民事再生を申請する状況」と現状を厳しく指摘。経営を改善し、再生するための道として、選択と集中による他病院との差別化、胆江医療圏全体の問題としてとらえ、県立病院などとの連携や分担をしていくことを示しました。

市はこの指摘を重く受け止め、本年度内に相原正明市長をトップとする検討委員会を早急に組織し、来年3月をめどに抜本的な対策を打ち出します。この検討委員会には、市、病院以外の専門家も招いて、さまざまな角度から改善につながる対策を検討していきます。

相原市長らを前に講評を述べる五十嵐アドバイザー（中央奥）

水沢病院医師紹介

本年度新たに着任した医師の皆さんを紹介します。

院長
中舘敏博先生（57）

総合内科長
菅原陽一先生（66）

検診科長
有田　明先生（60）

外科医長
齋藤雄康先生（36）

民生委員 児童委員

12月1日から333人に委嘱

地域住民の身近な相談役である民生委員・児童委員の改選期を迎え、12月1日から代わりました。任期は3年です。

委嘱状伝達式は3日、江刺総合支所多目的ホールで開かれ、新任147人を含む333人が委嘱されました。

民生委員・児童委員は国が委嘱します。一定の担当区域ごとに住民の生活上の悩み事の相談、指導や、国や市町村からの依頼で市民生活に関する実態調査業務などに当たり、守秘義務もあります。悩み事などがありましたら、お気軽にご相談ください。

※民生委員・児童委員の名簿は、自治区または公民館・地区センター単位で別途お知らせします。

市の出来事から

増田総務大臣に医師確保など要請

相原正明市長と小沢昌記市議会議長は11月9日、総務省を訪れ、前岩手県知事の増田寛也総務大臣に、地域医療支援のための要望書を提出しました。

相原市長は「医師不足の解消と公立病院への財政支援を」と訴えたのに対し、増田大臣は「十分に承った。総務省としても可能なことを検討したい」と理解を示しました。

▲増田総務大臣（中）に要請する相原市長と小沢議長

◀マニフェスト大賞授賞式。首長部門大賞の松沢知事（右端）。ことし話題となった東国原知事（前列右から3人目）も特別賞を受賞

マニフェスト大賞で特別賞

増田大臣を訪問した9日、マニフェスト大賞2007の授賞式が東京都内で行われ、相原市長のマニフェスト「みんなで創ろう豊かな奥州市」が首長部門審査委員会特別賞を受賞しました。

同大賞は、全国から応募された地方自治体の首長や議会のマニフェスト（政策宣言）を審査し、表彰しており、ことしが2回目。首長部門の大賞には、松沢成文神奈川県知事が輝きました。審査委員会特別賞は第2位に相当するもので、同部門は相原市長と東国原英夫宮崎県知事の2人が受賞しました。

CM大賞で熱演賞を受賞

秋晴れの下で行われたCM撮影

県内市町村を対象とした「ふるさとCM大賞inIWATE2007」の審査会は11月25日、いわて県民情報交流センターアイーナホールで開かれ、市が制作した作品「元気もりもり奥州市」が審査員特別賞（熱演賞）を受賞しました（副賞は年間70回のCM放送）。

ふるさとCM大賞（岩手朝日テレビ主催）は、市町村が「ふるさと愛」あふれる作品を制作し、地域の魅力を県内外の人々に広く発信しようという企画。ことしは30市町村が参加し、本市は合併後初参加となります。

市の作品は、旧衣川村時代からCM大賞ではおなじみの千葉仁一衣川区長が登場し、市の特産品をユーモアたっぷりに取り上げたものです。内容は審査会の模様と合わせ、12月24日（休・月）午後2時から3時25分まで、岩手朝日テレビにて放映されます。

200万人達成祝い折り鶴が舞う

前沢温泉「舞鶴の湯」は11月18日、開館以来の来館者数が200万人を突破しました。

200万人目の来館者となったのは、一関市から訪れた伊藤ミツノさん（79）。入館とともに、職員手作りの折り鶴が入った大きなくす玉が割られると、大きな拍手が起こりました。

同温泉は旧前沢町時代の平成10年4月に開館。交通の良さや広い展望風呂、地元の新鮮な農産物も販売する売店などが人気を呼び、年間20万人以上の来館者があります。100万人は、14年10月に達成しています。

記念品を受け取る加藤さん

日ごろからよく利用しているという伊藤さんは、岩渕功前沢区長から記念品の前沢牛を手渡され、満面の笑みを見せていました。伊藤さんの前後に訪れた、秋田県湯沢市の加藤昌英さん（60）、宮城県登米市の今野満夫さん（63）にも前後賞が贈られました。